第6回

役員訪問 聞かせてください

聞き手／ 常任理事 藤井美穂

・生年月日　昭和13年5月12日
・出生地　札幌市
・出身大学　北海道大学医学部
　昭和40年卒　第二内科
・好きな言葉　忍耐

●ガキ大将だった幼少時代

藤井：幼少の頃の思い出をお聞かせください。

三宅：ガキ大将だったから、ケンカもしょっちゅうでした。悪いことは一通りやったかな。よく街路樹に登ったり、屋根に上って走り回っていました。近所の屋根はほとんど制覇したんじゃないかな（笑い）。

藤井：現代っ子と違ってパワフルですね。

三宅：私だけじゃなく、昔の子はみんなそうでしたよ。

最近クローズアップされている「いじめ問題」ですが、昔だって「いじめ」はありました。昔の子は殴り合いのケンカを経験していたから、これ以上はまずいという限界を知っていましたが、今の子はそれが分からない。家に閉じこもってゲームに熱中するなど、集団生活の機会が少なくなったからでしょうね。

藤井：家族や社会のあり方をもっと大人が認識しなければいけませんね。

三宅：子どもたちに影響力のある大人が増えて欲しいですね。

●整理が苦手なコレクター

藤井：ご趣味は読書、囲碁、映画鑑賞、ドライブ、フィラリストとうかがっていますが、「フィラリスト」って何ですか？

三宅：切手収集家のことです。日本郵趣協会という団体の会員なので、医学や車など好きなジャンルの世界の切手が定期的に送られてきます。整理してないから、どこに何があるか分からないんだけど、多分、家1軒分くらいはありますね（笑い）。

本はよく読みます。昔は「電気代がかかるから早く寝なさい」と言われながらも、布団の中に照明を引き込んで読み漁ったものです。

囲碁は父がやっているのを見て覚えました。現在、北海道医家囲碁大会の会長を務めています。歴代会長の中で一番弱いんじゃないかな。我流で覚えたから、プロに「筋が悪い」って言われたことがあります。

大学時代は、教養のカリキュラムを社会的教養を積むことだと自分で解釈して、映画館に足しげく通いました。年間260本以上は見てたんじゃないかな。朝から晩まで映画館に居たこともありました。

最近はなかなか映画館に行く時間が取れないので、もっぱら家でＤＶＤを見ています。話題作は大体チェックしているので、どんどん増えていくんです。

藤井：先生はコレクターなんですね。

三宅：運転も昔から好きですね。ただ私の場合、景色を楽しむのは二の次で、運転操作が好きなもんだから、道中はほとんどノンストップ。同乗者は楽しくないんじゃないかな。

昔は川床を走ってみたり、無茶な運転もしました。そんな感じだから、ある時「チューボウ」って言われたんです。何の事かと思って聞いてみたら「中年暴走族」だって（笑い）。

藤井：先生は今、流行（はや）りの「チョイ悪オヤジ」ですかね（笑い）。

北海道医師会　常任理事　三宅直樹

●受験のはずが親友との放蕩旅行に

藤井：これまでの人生の中で、忘れられない思い出は？

三宅：大学受験で、福島県の飯塚温泉に親友と連泊したことが思い出深いですね。連日連夜、飲み歩きました。おかげですっかり散財し、受験も散々。途中で吐き気を催して受験会場を退室したもんだから、もちろん不合格でした（笑い）。

　東京経由で帰ったんですが、ちょうど父親が仕事で来ており、小遣いを貰って、銀座の飲み屋を一晩で15軒もハシゴしたことも忘れられない思い出ですね。

●組織力の強化狙い、機能評価を受審

藤井：先生の病院は、この10月20日に病院機能評価の認定を受けられましたね。おめでとうございます。

三宅：ありがとうございます。こんな時代ですから、不測の事態に備え体力のある病院を作るには、組織力を強化しなければならないと考えて受審しました。

　組織が強固であれば、トップが変わっても屋台骨は揺るがないですからね。五ツ星狙いではなく、「組織作り」を最優先した結果です。

●医師も労働者、労働環境の改善を

藤井：道医では医政、福利厚生、医療保険、看護対策などを担当されてきましたが、それ以前はどういった活動をされてきましたか？

三宅：昭和54年に、札幌市医師会北区支部の活動に参画しました。その後、北海道保険医会を経て、道医へと続きます。

藤井：もう27年ですね。ご苦労様です。

三宅：やりたいことをやってきただけだから、大変だと思ったことはありません。

藤井：医師の中で、地域、労働時間に格差が生じていますが、どのようにお考えですか？

三宅：医局制度の崩壊で、勤務医不足が深刻な問題になっています。

　現場では、当直明けの医師が、引き続き日勤しなければやっていけないような状況になっているところも少なくない。医師も労働者ですから、こうした現状は変えていかねばなりません。研修医制度についても同様です。研修医だけでなく、指導医にも相応の報酬がなければ、制度が立ち行かなくなってしまうでしょう。

インタビューを終えて

「やんちゃ」という言葉が似合う三宅先生　常任理事　藤井美穂

　好きな言葉は「忍耐」とおっしゃる先生。「自分の考えはストレートに言うし、短気だけど人とけんかにならないように気をつけています」とのこと。淡々飄々とした雰囲気は、忍耐に裏付けされたご性格から醸し出されてくるものなのでしょう。